

イエス様の洗礼

マタイ3章13～17節
2022年1月2日
松田 基子 師

神の御子のイエス様は、神様の人間創造の目的を裏切り、神様から離れて罪を愛し、罪と共に永遠の滅びに向かう人類を、何としてでも救いたいと願われ、その人類の罪を贖うために、クリスマスの夜、人の子となってこの世に生まれて下さいました。

『何よりも父なる神様が、愛する独り子さえ与えて、人類を永遠の滅びから救いたい』と願って下さったのですが、当の人間は、罪に対する危機感を、全く持ち合わせていませんでした。

皆が罪の中にいるために、罪に対して麻痺していました。みんな、自分よりも罪深い人を見つけて、

『自分はいかにいかに罪を犯していない。自分はまじな人間だ。』

そう、自分で自分に及第点を与えているのです。人間の悲しさ、それは、

『自分の**本当の姿**が分からない、
自分の**罪**が分からない』

というところにあります。何時の時代も、人間の**根本問題**がそこにあります。

イエス様は、愈々(いよいよ)人類の罪を贖われる使命に立って、公生涯に入られる時が迫っていました。その頃ユダの荒れ野では、世俗の生き方に反発して、聖い神様に仕えて、清い生活をしたと言う人達が、修道の生活をおくっていました。彼らは清い生活を求めて、身を清める沐浴と、断食の祈り、瞑想、聖書の写本作業などをして、神様に仕える共同生活を送っていました。ところが、そういう生活よりも、もっと厳しく自分を律し、神様への清さを求めた人がいました。その人は洗礼者ヨハネでした。

彼はラクダの毛衣を着て、腰に革の帯を締め、イナゴと野蜜を食物として生活をしていました。そういう極限の生活を自分に課して、神様の前

に清くあろうと努力したのです。ヨハネは神様が、イスラエルをご自身の宝の民として選ばれ、世界の民の祝福の源とするために、レビ記19章2節で、

「あなたたちは聖なる者となりなさい。あなたたちの神、主であるわたしは聖なる者のである」

と言われたその命令に、心を注いだ預言者でした。ヨハネ自身がその事に徹すると共に、彼は民衆の浄化を使命として、

「悔い改めよ。天の国は近づいた」

と、宣べ伝えました。彼のメッセージは、民衆への大いなる警告となりました。ヨハネにとって、神の国が近づいたことは、メシアの到来であり、神様の大いなる審判を意味しました。

ユダの荒れ野は、死海の西側に広がっています。死海には、ヨルダン川が、流れ込んで来ています。ヨハネはユダの荒れ野から、ヨルダン川へ行って、人々に悔い改めの洗礼を授けました。3章5節には、

「エルサレムとユダヤ全土から、また、ヨルダン川添いの地方一帯から、人々がヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から**洗礼を受けた**」

と記されています。

人々はヨハネの激しい言葉に、

『自分は神様の裁きを受けるのだ』

ということに震え上がって、洗礼を受けたのでした。人は皆、神様の前に、その全てが明らかである事を突きつけられると、耐えることは、出来ません。なんと、日頃、律法生活の模範者と自認して誇っていた、ファリサイ派や、サドカイ派の人々まで、ヨハネの許(もと)に来て、洗礼を受けようとなりました。

ヨハネは、その彼らに向かって10節で、

「斧は既に木の根元におかれている。良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれる」

と言っています。ヨハネのこの言い方は脅迫的です。

『これ以上罪を犯したら、切り倒されるのだ』

と迫っています。しかし、人間はそのように言われれば、その場逃れに、

「悔い改める」

と言うに違いないのですが、真の意味で、心の変革が起こるでしょうか。人々はヨハネの言葉の厳しさに、神様の審判を恐れしました。

ヨハネは、

『神様が求めておられることは聖である』と信じ込んでいます。神様はもうすぐ、清い天の国を、打ち立てて下さるのです。そのためにメシアが来られるのです。12節に、

「(そのメシアは、審判者として、)手に箕を持って、脱穀場を隅々まで、きれいにし、麦を集めて倉に入れ、穀を消えることのない火で焼き払われる」

と訴えています。この様に裁かれると聞けば、日頃は律法を守ることに懸けては、優等生の顔をしている、ファリサイ派の人も、恐れて、洗礼を受けたに違いありません。ヨハネは自分自身にも、世俗に染まない厳しい生活を課して、神様の求められる聖さに到達したいとの願いで、精一杯の努力をしていました。

しかし、彼は聖さを求めれば求める程、到達出来ない自分の限界に気付いていました。

そこに彼のメシア待望がありました。

3章11節で、

「わたしは、悔い改めに導くために、あなたたちに水で洗礼を授けているが、わたしの後から来る方は、わたしよりも優れておられる。わたしは、その履物をお脱がせする値打ちも無い。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる」

と言っています。

ヨハネ自身、

『人間は自分の力では聖くなれない。神様の力に依らなければ、聖くなれない』

ことを知っていたのでした。ヨハネがそのように葛藤している所に、イエス様は故郷のガリラヤを発って、ヨハネが洗礼を授けていたヨルダン川へ降って来られました。13節には、その目的が、

「彼(ヨハネ)から洗礼を受けるためである」とあります。

ここで私達に起こって来る疑問は、『イエス様は何故、洗礼を受けようとしたのだろうか』

と言う問いです。ヨハネが授けていた洗礼は、『誰も罪に汚れているのに、もうすぐメシアが来て、神の審きが始まろうとしている。

だから、悔い改めの洗礼を受けて、好い行いに励み、神様に受け入れて頂きなさい』と言うものです。そのための洗礼であるならば、イエス様は、罪の無い神の御子ですから、全くその必要はありません。そのイエス様が、何故洗礼を受けようとなさったのでしょうか。ヨハネも聖霊の導きでしょう、イエス様に、神的恐れを感じたようです。

『このお方は、自分が洗礼を授けるようなお方ではない』

と感じたようです。そこで、ヨハネは、イエス様に、14節で、

「わたしこそ、あなたから洗礼を受けるべきなのに、あなたが、わたしのところへ来られたのですか」

と問うています。

それは、ヨハネの側からすれば、もっともな事で、ヨハネといえども、彼が考えているような、『手に箕を持って、脱穀場を隅々まで綺麗にし、麦を集めて、倉に入れ、穀を消える事の無い火で焼き払われる、厳しい審判者であるメシアが来られるなら、ヨハネであっても合格するかどうかは分かりません。』

その事は、ヨハネが一番良く分かっていて、彼自身、そんな自分が、清められる洗礼を、受けたかったに違いありません。

しかし、イエス様は、15節に、

「今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです」

とお答えになりました。詳訳聖書では、

「イエスは答えられた。今はそうさせなさい。なぜなら、このことが、私たち二人にとって、全ての義を成就するための、即ち正当な事は何であっても、完全に遂行するための、正

「**当な道だからである**」
と訳されています。

イエス様はここで、
『ご自身が洗礼を受けることが、全ての義を成就するための、**正当な道だ**』とお答えになっています。全ての義とはなんでしょう。イエス様が言われている義とは、明らかに、神様の義、即ち神様が“善し”とされる事です。イエス様が、人の子となられたのも、そのためでした。それは即ち、

『**人類の救い**』
を意味しました。神の御子、イエス様の目的は、人類の、罪からの贖いとなることでした。

『イエス様が罪人の列に並んで、ヨハネから洗礼を受けられるのは、**ご自身が罪人と共に、神様の前に立って、彼らの罪を引き受けられるため**』

でした。人類を贖うためには、先ず、その罪を引き受けなければなりません。

『イエス様は人類の罪を引き受けるために、罪を告白する罪人の列に並んで、罪を引き受けた証に、洗礼を受けよう』とされたのです。

ヨハネは、その意味が深くは分からなかったでしょう。しかし、イエス様の説得によって、洗礼を授けました。すると、16節に、

「**イエスは洗礼を受けるとすぐ、水の中から上がられた。そのとき天がイエスに向かって開いた**」

とあります。天はそれまで、人間の罪の故に、閉ざされていました。天から、地への道は無かったのです。罪深い人間は、神様の御許に行く事は出来なかったのです。

しかし、イエス様が、公生涯に立たれ、愈々人類の贖いに向かって歩み出される時、人間の罪を引き受ける為に、ヨハネから洗礼を受けられた事によって、天は開け、天から地に向かって道が開かれたのです。神様の救いの業が愈々始まる、その証明にイエス様は、ご自身の上に神の霊が鳩のように、降って来るのを御覧になったのです。鳩のようにと言うのは、鳩の習性は、

目的地に来ると、真っ直ぐに急降下するのだそうです。ここでは、聖霊が、喜び溢れてイエス様に急降下なさった事を表しています。

父なる神様もまた、17節に、
「**これはわたしの愛する子、私の心に適うもの**」

と天から声をおかけになりました。神様は預言者イザヤによって、イザヤ書42章1節で、

「**見よ、わたしの僕、わたしが支える者を。わたしが選び、喜び迎える者を。彼の上**
にわたしの霊は置かれ、彼は国々の裁きを導き出す」

と預言されています。また、詩編2篇7節には、

「**主の定められたところに従ってわたしは述べよう。主はわたしに告げられた。お前は**
わたしの子、今日、わたしはお前を生んだ」

とあります。ここには神様が、ご自身の御心を行わせるために、特別に愛する存在を遣わし、**任命されることが預言されています。**

それが今、**イエス様の上に実現したのです。**イエス様ご自身、聖霊を受けられ、父なる神様からの御声を聞かれ、ご自身の使命をしっかりと受け止められたのでした。

ヨハネは、来るべきメシアは、神様の聖さによる、厳しい審き主である事を確信して、人々にその裁きに耐えられるようにと、悔い改めの洗礼を説きました。確かに人間は厳しい裁きに対しては、恐怖を感じますから、逃れたい一心で、悔い改め、洗礼を受ける事を願います。しかし、それは**根本的な解決ではない**ので、また、同じ罪を繰り返す事になります。ヨハネの洗礼を受けた人々が、また、**罪を犯し続けた事は、火を見るよりも明らか**です。

結局人間の側に、**罪の解決はない**のです。そのために、

『**神様は、人間を救うたった一つの方法として、御子イエス・キリストを、人類の罪の贖い主として、人の子とされたのです。**』

そして、

『**そのイエス様は、人類の罪を引き受ける**

ために、罪人の列に並んで洗礼を受け、罪をその身に引き受けられました』が、イエス様の素晴らしさは、『ただ、人類の罪を引き受けられただけのことではなく、その**罪人を愛された**』ことです。

《人間の清い人》は、

罪を糾弾して、相手に、罪から離れさせようとします。ヨハネがそうでした。ファリサイ派の人々は、律法を知っているだけに、人々の律法違反が目につき、罪を指摘しました。

人間はそうにされて、罪から離れる事が出来るでしょうか。人間はそうにされたら、愈々心頑なになるばかりです。

イエス様は、違いました。人間の罪ある存在、そのものを愛されました。イエス様は、皆が罪人だと嫌悪する、徴税人のザアカイに対して、一言もその罪を責めてはおられません。

ルカによる福音書19章5節に、

「イエスはその場所に来ると、上を見上げて言われた。ザアカイ、急いで降りてきなさい。今日は是非、あなたの家に泊まりたい」

と言っておられます。

イエス様はもう、すでに、彼の罪を全て引き受け、愛する友として、ザアカイに声を掛けておられます。ザアカイに、イエス様のこの愛は、熱く伝わりました。彼は喜びに溢れ、イエス様を家に招くと、

「主よ、わたしは財産の半分を、貧しい人々に施します。また、誰かから、何かだまし取っていたら、それを4倍にして返します」

と言っています。ザアカイは、イエス様に愛され、赦された事によって、全く新しい人間に生まれ変わりました。イエス様はその彼に、

「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。人の子は失われたものを探して、救うために来たのである」

と言われました。

神様の義、神様の正しさ、それは御子イエス・

キリストの贖いによって人類が救われる事です。イエス様はその一事のために、人の子となってこの世に生まれ、生きて、全人類の罪を一身に負って、身代わりに十字架の死を死んで、人類を贖い、人類に**真の救いを与えて**下さいました。その御業を、イエス様は**罪人の列に並んで罪を引き受け、洗礼を受ける**ことから始められ、いよいよその公生涯に入られるのです。私たちはそのイエス様の深い愛と、神の子の權威を以て**罪を赦し、天国への道を開いて**下さった、その大いなる御業を信じ、この年もイエス様に心から従って参りましょう。

お祈りを致します。

愛と憐れみに富み給う天の父なる神様

あなた様の、私たち人間に対する測り難い愛の御計画、そしてその御計画に全存在を献げて、私たち人類の罪を、十字架に架かって贖ってくださったイエス様の御愛に、心から感謝します。

どうかこの年、このご愛の深さを、愈々深く知り、そのご愛に応えていく者とならせてください。この年も、イエス様を頭として、互いに愛し合い、祈り合い、助け合って、主の教会を建て上げて行く事ができますよう、上からの力をお与え下さい。

教会員一人ひとりに、この主の溢れる祝福をお注ぎ下さい。

尊い救い主、イエス・キリストのお名前によってお祈りを致します。

アーメン。